

水木しげる先生にうかがった西宮時代

水木しげる先生の西宮時代の思い出などについて、水木プロダクション様へ尋ねたところ、以下の回答を頂きました。水木プロダクション様のご協力に感謝申し上げます。

(財)西宮市文化振興財団

西宮市甲子園口時代

Q.1 甲子園口近辺の思い出の風景

水木先生が、10代の後半、昭和15年からご家族と住まわれていた西宮市甲子園口から大阪の美術学校へ通われ、休日は散歩と写生をされていたとのことですが、甲子園口近辺での思い出深い風景や建築物はありますか？

またそのもののスケッチなどもお持ちでしょうか？

A.1 「武庫川」

Q.2 宝塚歌劇について

甲子園口から「宝塚の動物園と少女歌劇を見に行くのが楽しみだった」と書かれています。(年譜)先生の思い出の作品やスターはどなたですか。

また、先生がご覧になった宝塚の舞台からの何らかの影響が先生の作品に反映されているのでしょうか？

宝塚市出身の手塚治虫氏は、その自伝に歌劇を見た思い出を「この世の最高の芸術だと驚嘆した、憧れと夢に中毒した錯乱状態に陥ってしまった」とまで書かれています。『リボンの騎士』では、「歌劇中毒症状が完癒せぬまま少女漫画として描いた」と告白されています。水木先生の宝塚の思い出などお聞かせ下さい。

A.2 「キレイな女性が歌って踊る姿が面白かった」

西宮市今津時代のこと

Q.3 今津へ引越して来られた理由

神戸兵庫区の水木通りから、今津へ引越して来られた理由はなんですか？

10代後半に西宮市で過ごされ、この土地に馴染みがあったからか、紙芝居作家として、阪神画劇社との関係からなのか、宝塚へ電車一本で行けるなどの交通の至便さなどが等をお聞かせ下さい。

A.3 「安い家賃だったから」

Q.4 今津近辺の思い出の風景

図録では、ガスタンク、武庫川駅近くの踏切、部屋の窓からの風景、廃屋などの絵が掲載されています。この時期「趣味は、カネがないから、散歩しかない」と書かれていますが、特に思い出深い風景はおありですか？

先生のお住まいがあった水波町のちょうど北側で阪神電車の線路の向うには、商店街がありその東側の津門呉羽町には浄願寺という大きなお寺がありますが、この近辺も散歩されておられましたか？

A.4 「家がたくさんあった」

「浄願寺近辺はあまり散歩していなかった」

Q.5 神戸市立美術研究所

今津から神戸市立美術研究所へ通って、デッサンの勉強をされていました（年譜）神戸市立美術研究所には、小磯良平氏、小松益喜氏などそうそうたる画伯たちがおられましたが、水木先生が印象深く思われる先生はどなたでしたか？

A.5 「印象深い先生はいない」**そ の 他**Q.6 ゲーテ、ニーチェ、聖書について

少年時代、ゲーテの生き方に共感し「ゲーテとの対話」（エッケルマン著）を愛読、また、ニーチェ、聖書なども読まれたとあります。（水木しげる詳細年譜）

甲子園口時代に、このような書物に親しまれたことが、先生の作品に思想的な深みを与えていることは確実ですが、これらの書物から受けられた影響が先生のその後の生活や作品に反映されていると考えますが、如何でしょうか。具体的なお話がありましたら、お聞かせ下さい。

A.6 「若い時期だけ生活に反映させていた」